

## 第10回 白梅保育セミナー

### 「いま保育に問われていること」 —— 今求められる保育施設の 役割と求められる保育者——

2004年12月5日

「今求められる保育施設の役割と求められる保育者」と題した第10回白梅保育セミナーは、114名の参加者を得て12月5日(日)に白梅学園短期大学において行なった。

今回は、4月より学長である無藤隆先生に、4年制大学の設置と将来の保育者のあり方等について午前中に講演を頂き、午後は4つの分科会を持った。

無藤学長は、中央教育審議会幼児教育部会の委員として「総合施設」検討会議のメンバーでもあり、総合施設は子育てと幼児の教育・保育の重要性が増す中で、地域の子育て支援を広げていくためのものとして考えられていること。ただし、保育の質を保てない安上がりの保育施設として進められないように、国の責任や、情報公開、第三者評価などを充実させていくことが必要であることを強調した。次に小学校以降の教育の基盤として幼稚園の教育機能が重要となっていることをあげ、幼小連携が重要でありそこに役割を果たし得る教員養成として幼小の免許および保育士の資格取得のできる白梅の四年制大学の役割を述べた。そして、保育者の質の向上と資格・免許の高度化が一層求められることから、保育ソーシャルワーカーや保育カウンセラーなどの導入、種々の専門家とのネットワークを活用した総合的な支援ができる保育施設及び専門家を養成していくことの重要性を説明した。

第1分科会、子育て支援・次世代育成市町村行

動計画と保育、報告

次世代育成行動計画の策定が地方自治体で進められている昨今、その計画概要についての説明を司会者が資料をもとに説明をすることから始めた。パネリストには近隣の2市の担当課長たちを迎えてその中間のまとめ内容の報告をしていただいた。一つは清瀬市で、事務局業務を受託したNPO法人子育てネットワーク・ピッコロの代表者とともにその協働内容を、一つは夢育て・たちかわ子ども21プラン策定市民委員会の内容を受けて行政と一緒に作り上げている内容であった。具体的な経緯を含めた報告は、行政との協働のありかたを示してもらえた。参加者からは自分の勤務する、あるいは住まう地域の策定計画とその経緯についての点検・評価をしていくように喚起されたということと、保育・福祉に携わる人間として、行政の動向も捉えながらかわることの重要性についても学んだという。難解に思えた内容がわかりやすかった、という声が多かった。

第2分科会では、「保育施設における子どもへの適切な対応」をテーマに、教員が卒業生から聞いている保育施設での不適切な対応を報告し、それぞれの職場ではどうであるかを振り返った。参加者の感想では、「今まで気に留めていなかったところに問題があることに気づいた」「同じ様な悩みやケース事例を知り、自分だけではないことが分かった」「子どもの権利について考えさせられた」「不適切な対応かどうかを程度で見えてはい

けないことが分かり、日頃の保育を見直してみたいと思う」など好評であった。

第3分科会は、「保育者に求められるもの」をテーマに、「環境と子どもの育ち…自然環境を生かした保育の大切さ」「音楽と子どもの育ち…音楽を保育に生かすことの大切さ」の2つに分かれて行なった。どちらも本学の教員が問題提起をして参加者と話し合った。参加者の感想、まず「環境と子どもの育ち」では、「子どもが自ら感じて学んでいける自然の大切さをあらためて認識した」「動物や虫を通して命の捉え方、大人の関わり方が良くわかった」「戸外の実体験でやってみたい」など、次回は戸外でとの希望も寄せられた。次に「音楽と子どもの育ち」では、「子どもの立場に立った音楽活動の大切さが良くわかった」「アレンジすれば大きく広がっていく音楽の遊びを知り、今後に大いに役立つものだった」「先生の話のみでなく参加型の分科会でとても楽しくできました」など好評でした。

今回、参加型の分科会を考え、教員が中心となっ  
て行なうセミナーにしたことは、白梅の教員が常  
に卒業生等にとって、現場の保育での悩みや疑問  
に協力して取り組む姿勢を伝えるものになったと  
思われる。全体として好評を得るセミナーであっ  
た。

(中山 正雄)